

木構造等工事言己土木建築 2011年度版

§1 一般事項

- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書の優先順位は下記による。
1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図
4) 仕様書
5) 日本建築学会標準仕様書
1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。
1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は()で示す。
1-7 その他

§2 構造計算ルート

Table with columns for direction (X, Y) and structural calculation routes (Route 1, 2, 3). Includes notes on reinforcement and design standards.

§3 仮設工事, 土工

- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 * 根切り土の中の良土 * 搬入良土
盛土 * 根切り土の中の良土 * 搬入良土
残土処分 * 場内均等地 * 場外搬出処分(* 自由 * 指定場所)

§4 地業工事

Table for foundation and slab work (単位mm). Columns include location, concrete thickness, and dimensions. Includes notes on reinforcement and design standards.

- 4-1 基礎及びスラブ地業 (単位mm)
4-2 設計地耐力
4-3 地盤改良
4-4 既設コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

- 1) 杭種
* PHC杭 * A種 * B種 * C種
* ST杭 * A種 * B種 * C種
* SC杭 tmm
* PRC杭 * I種 * II種 * III種 * IV種
* 節杭 * A種 * B種 * C種
2) 工法
* 打撃工法 * 油圧ハンマー * ディーゼルハンマー
* 埋込み工法 * プレポーリングセメントミルク注入工法
* プレポーリング拡大根固め工法 (認定工法)
* 杭周辺定礎 * あり * なし
* 中掘拡大根固め工法 (認定工法)
* 回転埋設根固め工法 (認定工法)

Table for pile design strength (杭径, 設計耐力, 本数, etc.).

- 4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強
* 杭外周溶接
* カゴ筋 * スタッド溶接 * 杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭, 場所打鋼管コンクリート杭
1) 工法
* アースドリル工法 * 拡張アースドリル工法
* リバース工法 * オールケーシング工法 (ベノト工法)
* BH工法
2) 杭径, 設計耐力, 本数表 (杭底面は施工径を示す)

Table for pile design strength with columns for diameter, length, and number of piles.

- 3) 杭先端深さ GL ~ m
4) 孔壁測定 (2方向)
* 行う (* 全数 * %) * 行わない
5) 使用材料
コンクリート * Fc (* 普通ポルトランドセメント * 高炉セメント B種)
鉄筋 * D 以下 SD295A * D 以上 SD345
* D 以上 SD390
* 鋼管 (リブ付) * SKK400 * SKK490
4-6 杭打地業共通事項
1) [* 杭長決定用先行杭 * 試験掘 * 行う (本) * 行わない
2) 載荷試験 * 行う (箇所, 長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない
3) SIL検布 * 行う * 行わない

§5 鉄骨工

Table for steel reinforcement types (種類, 径, 継手). Includes notes on welding and design standards.

- 5-2 溶接部の検査 (第三者機関による)
5-3 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品 (評定品) を使用する。
5-4 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎ ①一般 * ②地反力を受ける とする。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

- 6-1 設計基準強度 (N/mm²)
1) セメント * 普通ポルトランドセメント JISR5210 * 高炉セメント B種
* 低熱ポルトランドセメント JISR5210
2) 粗骨材 * 砂利 * 砕石 * 高炉スラグ骨材 * 人工軽量骨材 * 再生骨材
最大径 (mm) * 20 * 25 * 40
3) 鋼体 (使用区分は設計図の軸組図に示す)
◎ 普通コンクリート
* Fc18 * Fc21 ◎ Fc24 * Fc27 * Fc30 * Fc
* 軽量コンクリート (* 1種 * 2種 気乾単位容積質量 * 18.5)
* LFc18 * LFc21 * LFc24 * LFc27 * LFc30 * LFc

- 4) 土間コンクリート ◎ Fc18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は鋼体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ◎ Fc18
6) 防水押さえコンクリート * Fc * LFc (気乾単位容積質量 * 18.5)
7) かさ上げコンクリート * Fc * LFc (気乾単位容積質量 * 18.5)
6-2 混和材 * AE減水剤 * 高性能 AE減水剤 * 繊維防水材 * 膨張材
6-3

Table for concrete properties (箇所, 基礎, 地中梁, 一般, 備考).

- 6-4 試験 (鋼体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [◎ 塩分含有量 * アルカリシリカ反応性] * 行う * 行わない
2) フレッシュコンクリート [◎ スランピング ◎ 空気量 ◎ 空気量] * 行う * 行わない
3) 鋼体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 * 行う * 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 * 行う * 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ検査 (温度応力解析) * 行う * 行わない

- 6-5 調査 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級 () は耐久設計基準強度 Fd
* 短期 (18) * 標準 (24) * 長期 (30) * 超長期 (36)
調査管理強度 Fm = Max (Fc, Fd) + S S=3~6
材齢28日の調査強度Fmは下記の両式を満足するものとする。
F ≥ Fm + 1.7 * σ F ≥ 0.85 Fm + 3 * σ
6-6 せき板及び支柱の在置期間 (普通ポルトランドセメントの場合)

Table for curing periods (コンクリート, 材料による, 場合, 圧縮試験による場合).

- 6-7 住宅性能表示
劣化等級 * 等級2 * 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2-7かより厚さが変わる場合があるので注意すること。
6-8 Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§7 鉄骨工事

Table for steel types and usage (規格名称, 鋼材名, 柱, 梁, etc.).

- 7-2 高力ボルト
高力ボルトの種類 使用箇所
トルシア形高力ボルト * S10T 全般
JIS形高力ボルト * F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト * FBT 母材が亜鉛メッキされている部分

- 7-3 普通ボルト, アンカーボルト
1) 材質 * SS400 * SS490 (M以上)
* ABR400 * ABR490 * ABM400 * ABM490 (ABMはM24以上)
2) 大臣認定仕型 (メーカー仕様による) * 使用する ◎ 使用しない

Table for bolt specifications (径, 長さ, 使用箇所).

- 7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選択する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 * スカラップ工法 * ノンスカラップ工法
7-7 継手

Table for joint specifications (フランジ, ウェブ, 柱, 梁).

- 7-8 溶接手法及び管理
使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
7-9 テックプレート (単位 mm)
1) 床用 高さ * 板厚
2) 合成スラブ用 高さ * 板厚
3) 型枠用 高さ * 板厚 * 形板 タイプ
4) 防錆処理 * プライマー * 亜鉛メッキ * Z12 * Z27

- 7-10 錆止め塗装 (工場塗 * 2回 * 1回, 現場タッチアップ程度とする)
1) 素地こしらえ * クレン * プラスト
2) 錆止め塗料
適用 室内 塗料 種別 標準厚
◎ * 鉛、クロムフリー錆び止め JISK5674
* 一般用錆止めペイント JISK5621 * 1種 * 2種 35µm
* 鉛丹錆止めペイント JISK5622 * 1種 * 2種
* シアナミド鉛錆止めペイント JISK5625 * 1種 * 2種

- 3) 溶融亜鉛メッキ * 行う ◎ 行わない
7-11 溶接部の検査 (受入検査) * 行う * 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者 (元請) との直接契約による。
2) 第三者検査機関は (社) 日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格判定は7. 2. 1. 疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5. 1. 溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

- a) 工場溶接の場合
* 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
* 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
* サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残りの全数の検査を行う。
b) 現場溶接の場合
◎ 全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」等を参考にす。

§8 鉄骨製作工場

Table for steel fabrication shop certification (国土交通省大臣認定 (グレード) S, H, M, R, J).

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

- B-1 コンクリートブロック
1) 種類 * A種 * B種 * C種
2) 厚さ mm * 100 * 120 * 150 * 190
8-2 ALCパネル
1) 使用箇所 * 床 * 屋根 * 外壁 * 内壁
2) 厚さ mm * 75(80) * 100 * 120 * 150 * 175 * 50
3) 外壁取り付け構法

Table for concrete block specifications (方向, 構法, 使用箇所, 備考).

- 8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm * 40
方向 構法 使用箇所 備考
縦 * スライド構法
* ロッキング構法
横 * カバープレート構法
* ボルト止め構法

- B-4 PCa板
1) 床及び屋根
* PCa板単独 厚さ mm *
* 合成板
* 床 * 屋根

Table for PCa board specifications (PCa板厚さ mm, 現場打厚さ mm, 合計厚さ mm, 備考).

- 2) 外壁 厚さ mm *
* 床 * 屋根

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2011年度版

§1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に依るものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最大径は下表による。

記号	●	×	◇	○	◎	⊗	⊕	⊙	⊚	⊛	
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最大径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合
○ フックのある場合
○ 本数に差がある場合
○ 機械式継手表示
○ 溶接継手表示
(ガス圧接、突き合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内径(直径(D))
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 巻筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295 SD345 SD390	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上 5d以上
135°		スラブ筋 巻筋	SD490	D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上
90°					

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2009)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ		
		上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂	上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂	上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂	上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂	
SD295 (SD345)	18	45d(50d)	40d	40d	40d	
		35d	30d, 20d	15d(20d)	15d(20d)	
	21	40d(45d)	35d	35d	35d	
		30d	25d, 15(20)d	15d	15d	
	24~27	35d(40d)	30d(35d)	25d(30d), 15(20)d	15d	15d
		25d(30d)	20d(25d), 15(20)d	15d	15d	
30~36	35d	30d	25d, 15d	15d	15d	
	25d	20d	15d	15d	15d	
SD390 (SD490)	21	50d(-)	40d(-)	20d	20d	
		35d(-)	30d(-), 20d(-)	(-)	(-)	
	24~27	45d(55d)	40d(45d)	30d(35d), 20(25)d	15d	15d
		35d(45d)	30d(35d), 20(25)d	15d	15d	
30~36	40d(50d)	35d(40d)	25d(30d), 15(20)d	15d	15d	
	30d(35d)	25d(30d), 15(20)d	15d	15d		
39~45	40d(45d)	35d(40d)	25d(30d), 15(20)d	15d	15d	
	30d(35d)	25d(30d), 15(20)d	15d	15d		
48~60	30d	25d	15d	15d	15d	
	20d	15d	15d	15d	15d	

2-4 継手一般

3. 構造特記仕様書2-2で改令第73条とした場合、主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さは上表L₁ L₂ かつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。

4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2009)、RC規準2010とした場合、主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さは設計者の指示による。参考値として上表JASS5(2009)にL₁ L₂を示す。

1. 溶接継手

2. 機械式継手

3. 重ね継手(下記のいずれかとする。壁、スラブ筋でD16以下の場合を除く)

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(溶接、機械式継手等による)

5. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。

6. 突き合せ溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

7. 下記の1.~7.に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

1. あばら筋及び巻筋 2. 煙突の鉄筋

3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)

4. 片持ちスラブの上端部の先端

5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の内隅の鉄筋

6. 杭基礎の基礎筋(備心基礎及び杭2本打以上の場合)

7. 鉄骨柱の脚部の基礎筋、又は根巻コンクリートの内隅の鉄筋

2-5 鉄筋のフック

2-6 鉄筋のあき

2-7 かぶり厚さ

部 位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋外スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	非耐力壁	30(20)
	耐力壁	40(30)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ、壁	40(30)
	柱・梁の立上り	50(40)
基礎	50(40)	50(40)
蓋 礎・兼 壁	70(60)	70(60)

1. ()内の数値は最小かぶり厚さを示す。

2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。

3. ※1 品質・施工法に応じ、工事管理者の承認で10%減の値とすることができ。

4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10%加算する。

5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

3-1 主筋の定着

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

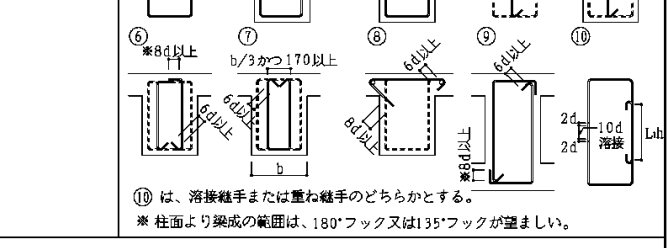
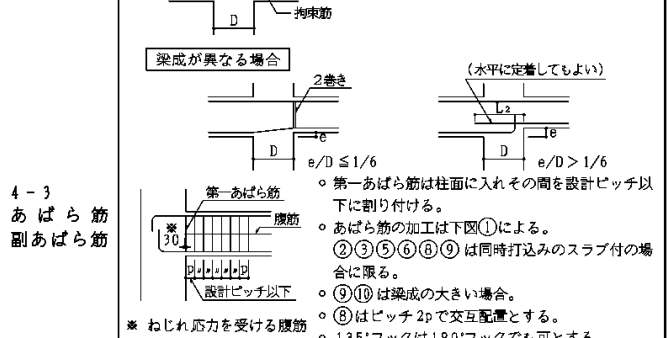
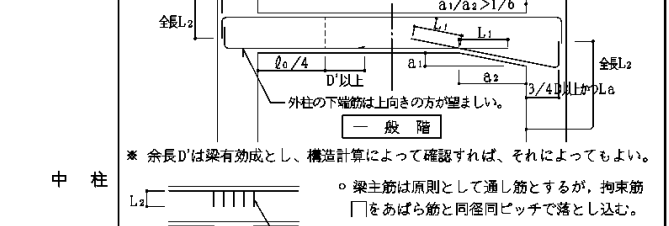
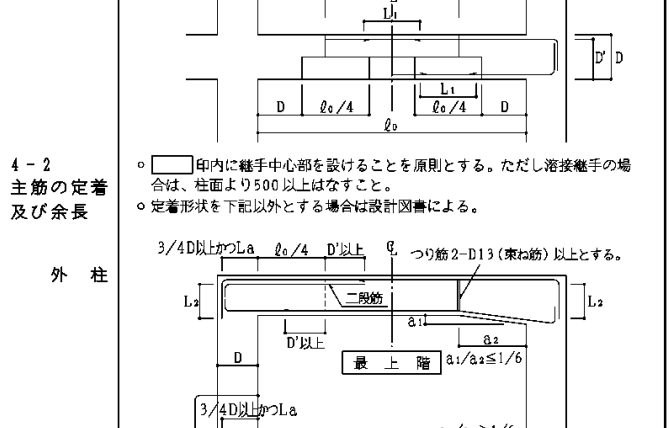
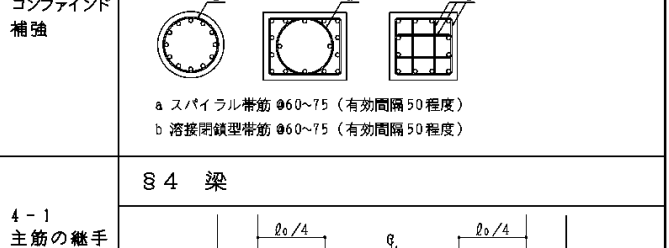
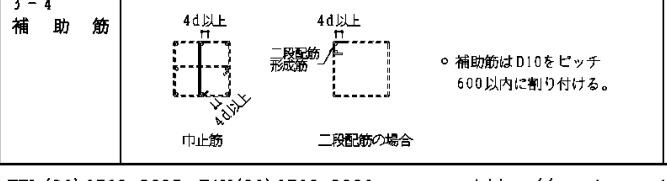
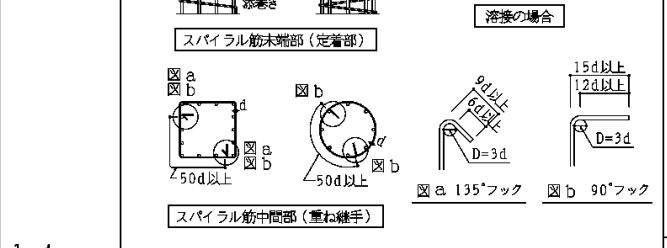
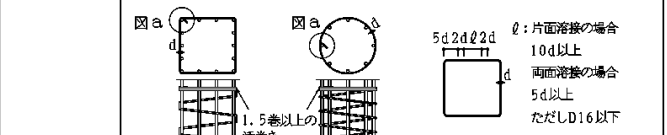
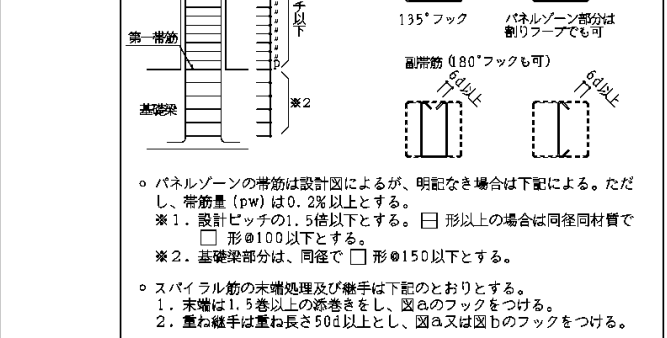
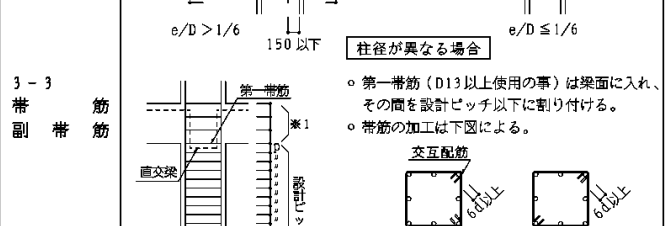
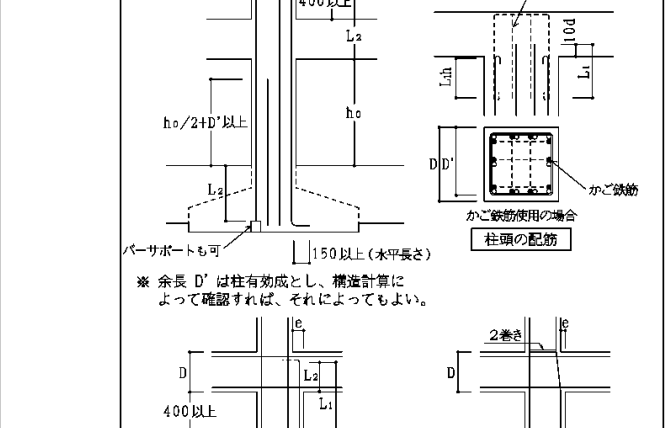
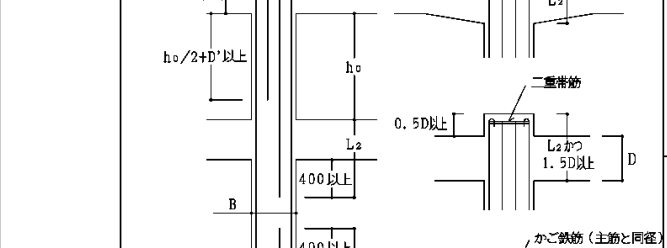
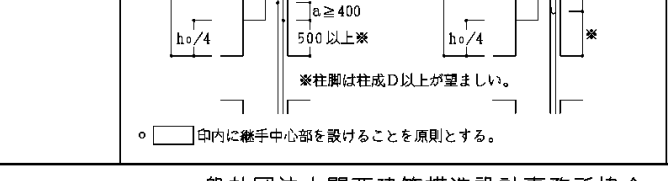
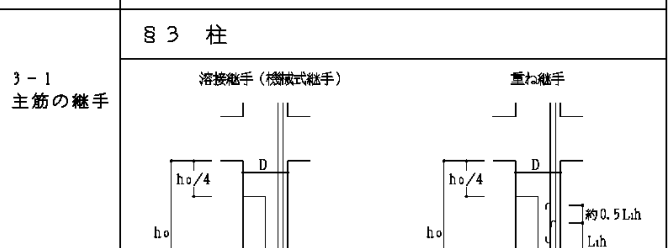
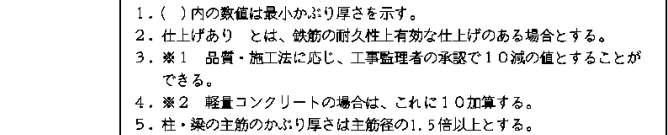
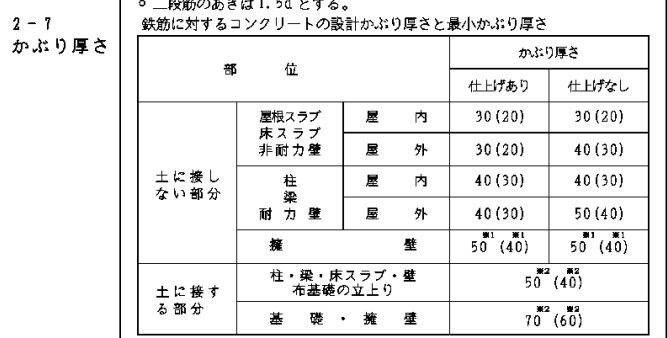
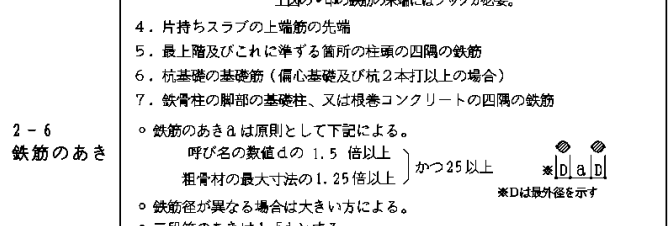
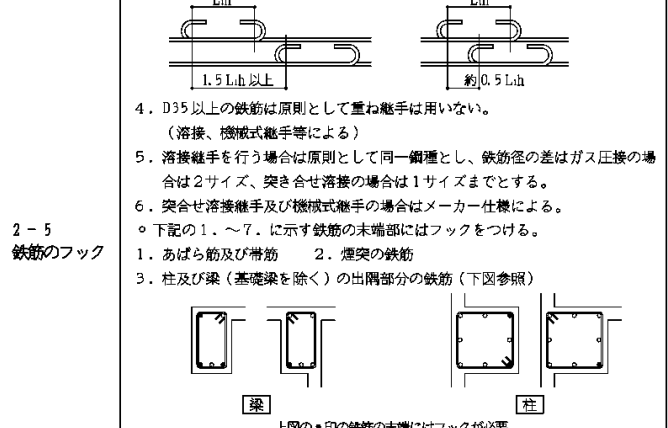
3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

4-3 あばら筋副あばら筋

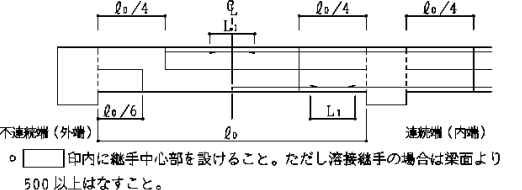


鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2011年度版

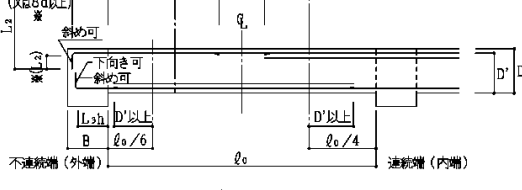
4-4 補助筋



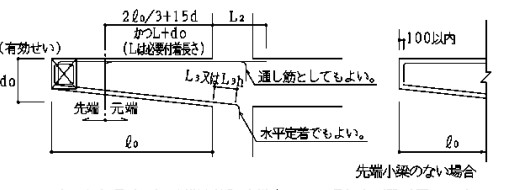
4-5 小梁及び片持梁



4-6 基礎梁及び基礎小梁



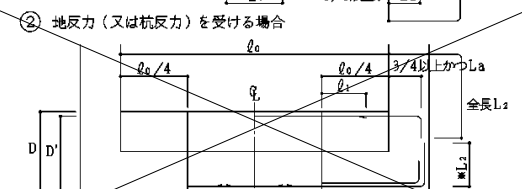
4-7 梁の貫通補強



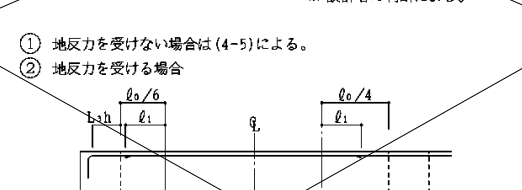
4-8 片持梁の継手及び定着



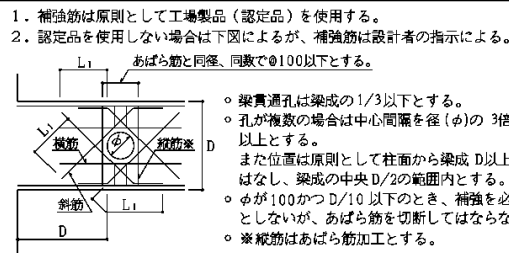
4-9 基礎梁の継手及び定着



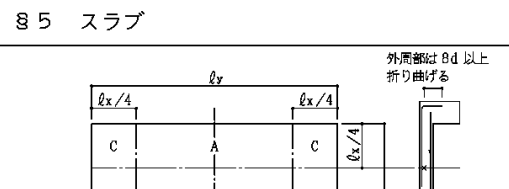
4-10 基礎小梁の継手及び定着



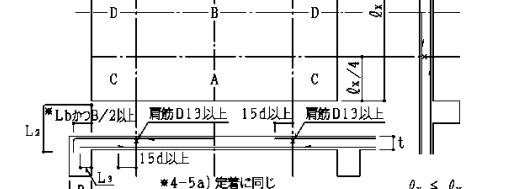
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



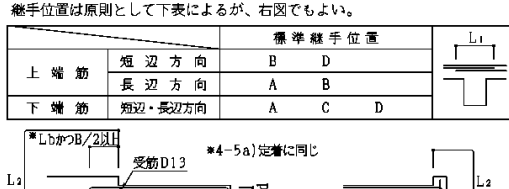
5-2 継手



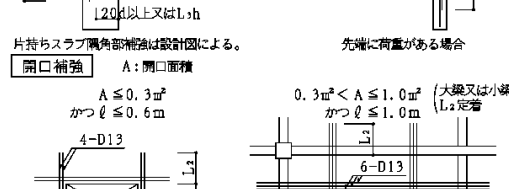
5-3 片持スラブ



5-4 補強筋



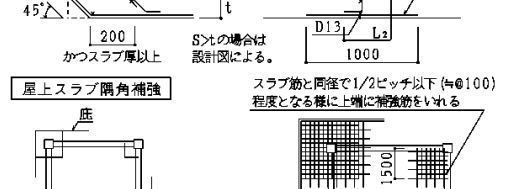
5-5 開口補強



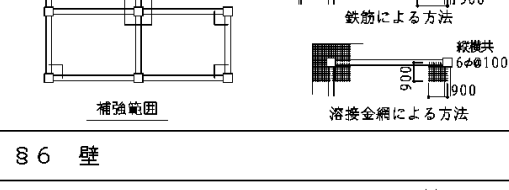
5-6 段違



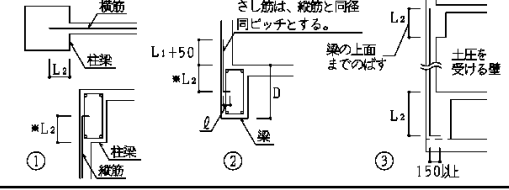
5-7 屋上スラブ隅角補強



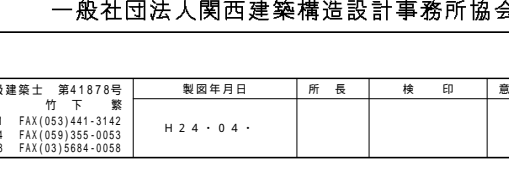
5-8 R.C壁・C.B壁が床にのる場合



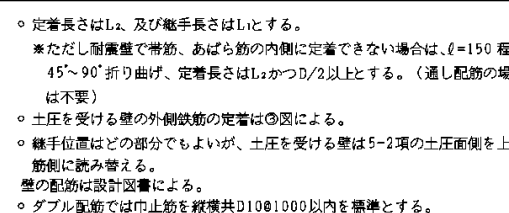
5-9 補強範囲



6-1 定着及び継手



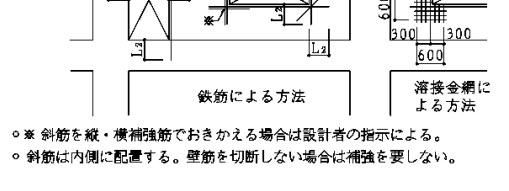
6-2 壁配筋



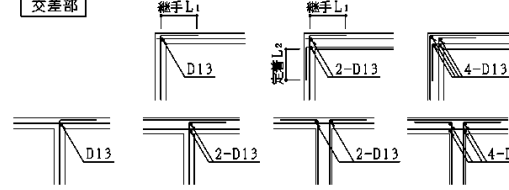
6-3 補強筋



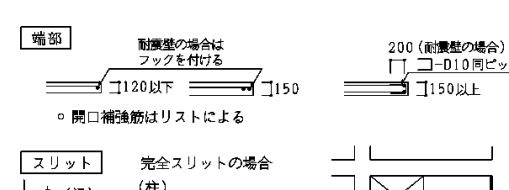
6-4 開口部



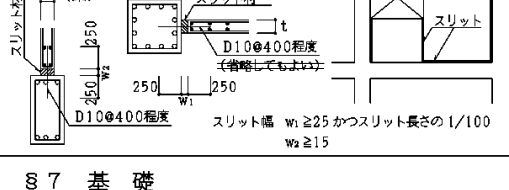
6-5 交差部



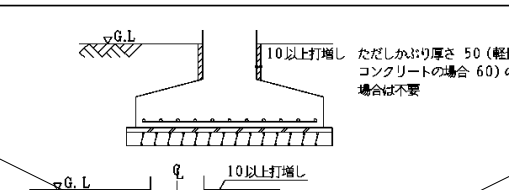
6-6 端部



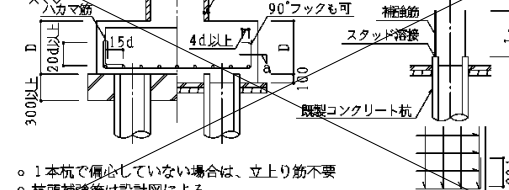
6-7 スリット



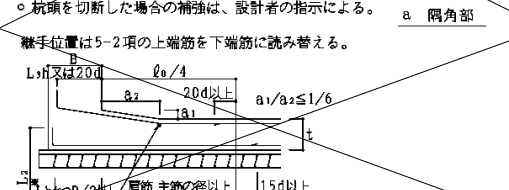
7-1 独立基礎



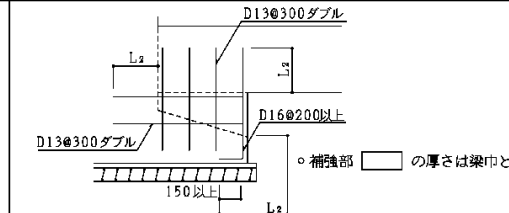
7-2 杭基礎



7-3 ペタ基礎継手及び定着



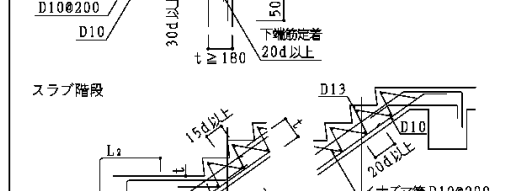
7-4 基礎と基礎梁



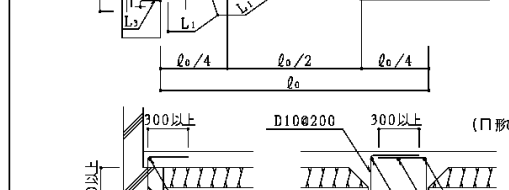
7-5 階段



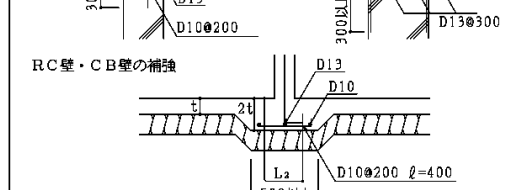
7-6 土間コンクリート



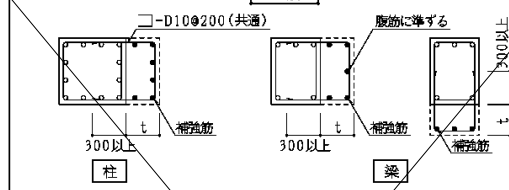
7-7 打増し補強



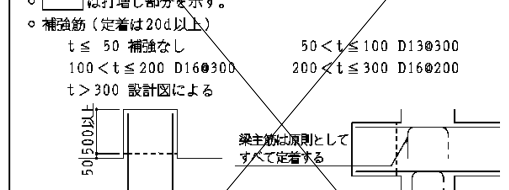
7-8 増築予定



7-9 基礎



7-10 壁



1-1 基本事項
1) 使用材料、工法等は特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。

1-2 その他
S2 共通事項
○AB アンカーボルト ○SE スプラインプレート ○GE ガセットプレート
○BE ベースプレート ○WE ウェブプレート ○RE リブプレート
○DFE ダイアフラム ○BH 組立てH形鋼 ○TB ターンバックル
○FLE フランジプレート ○CHE チェッカープレート ○Wi-e 溶接記号(目4参照)
○HTB 高力ボルト ○FB フラットバー

3-1 高力ボルト
ボルトの長さ
呼び径 FBT, F10T S10T
M16 30 25
M20 35 30
M22 40 35
M24 45 40

3-2 高力ボルトのピッチ
呼び径 M16 M20 M22 M24
標準ピッチ P 60 60 60 60
最小ピッチ p 40 40(50) 40(55) 45(60)

Table with 4 columns: 呼び径, M16, M20, M22, M24. Rows include 標準ピッチ, 最小ピッチ, 最小端距離, and 手動打込みのピッチ b.

Table with 4 columns: A or B, g1, g2, 最大外径. Rows list various bolt specifications and their dimensions.

S4 溶接溶接
t ≤ 16
16 < t ≤ 40
記号 W: 厚さ(S) 0 ≤ AS ≤ 0.5S かつ AS ≤ 5, AS = S'-S, S = 設計サイズ, S' = 実測サイズ

4-1 隅肉溶接
1) 厚みの異なる場合(通しダイアフラムを除く)
2) エンドタブ
3) 開先加工(下図は参考とする。)

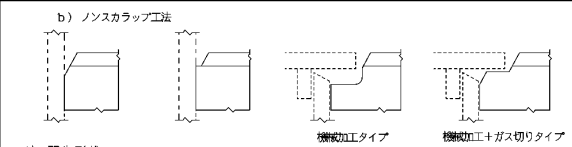


Table for S5 継手 showing joint types (MC-BL-B1, MC-BL-2, MC-BX-2, MC-B1-B1), dimensions, and materials.

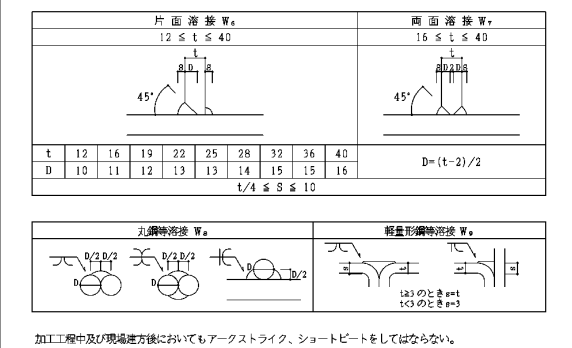
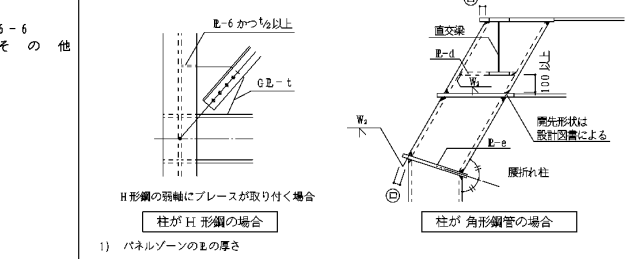
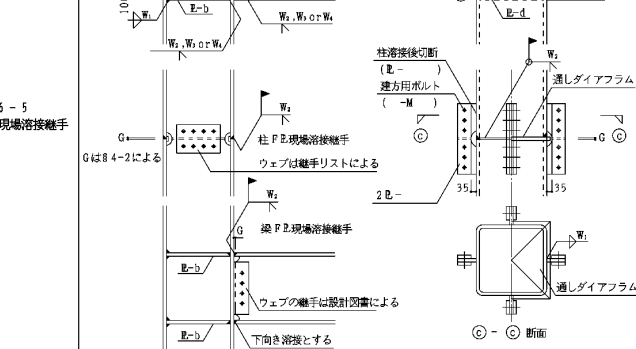
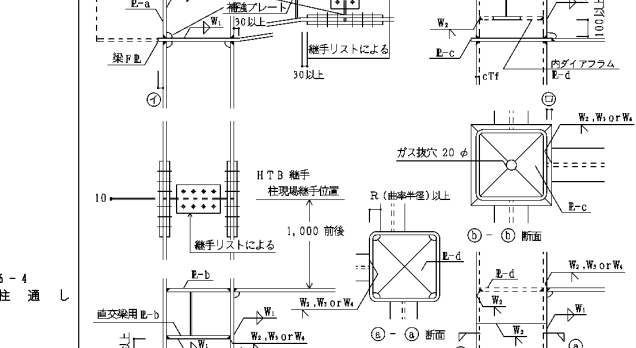
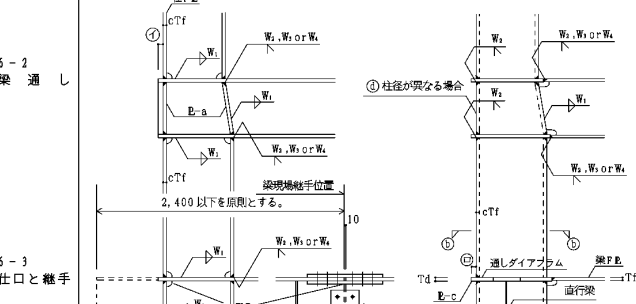
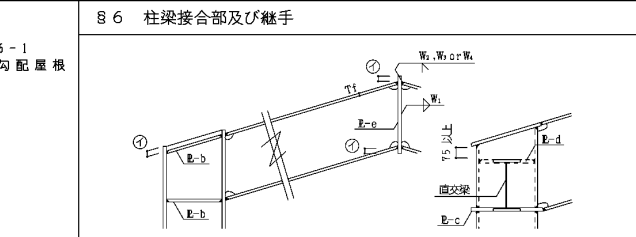
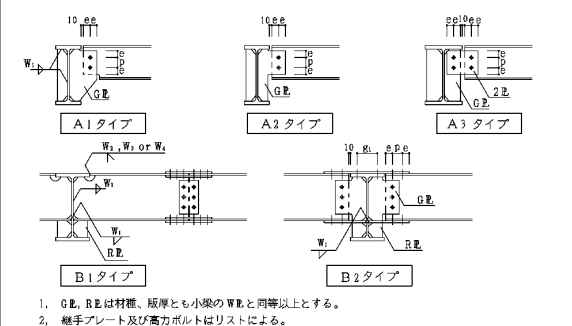
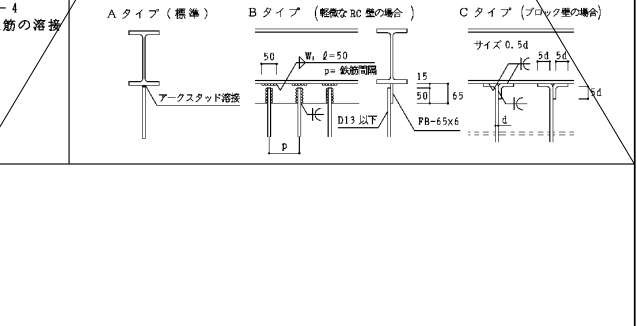
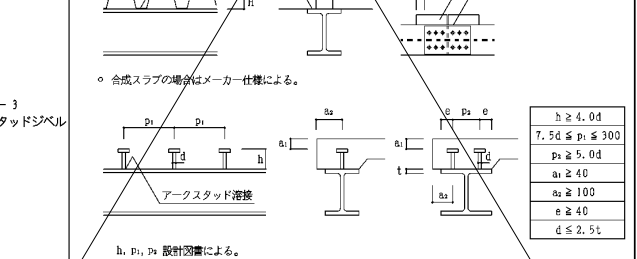
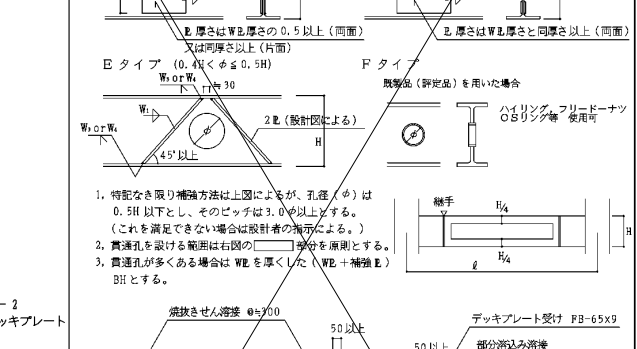
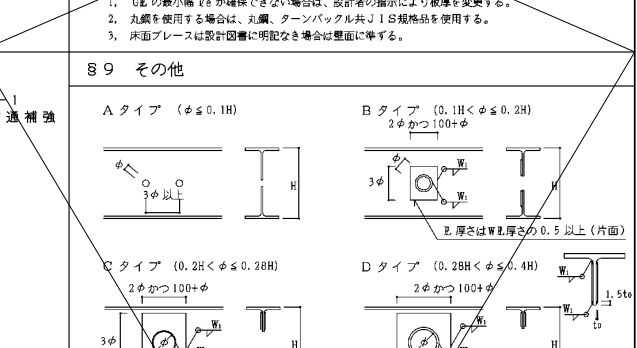
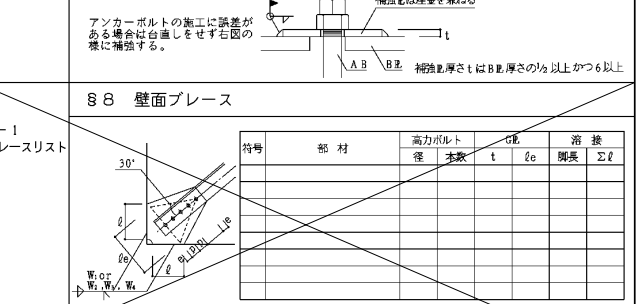
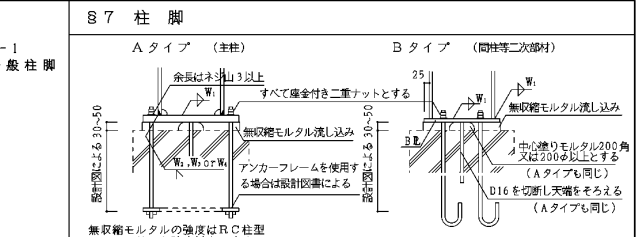


Table for S5 継手 showing materials and dimensions for different joint types.

Table for S5 継手 showing materials and dimensions for different joint types.



- 1) パネルゾーンでの厚さ
2) E-a (縦筋スチフナ)
3) E-b (水平スチフナ)
4) E-c (通しダイアフラム)
5) E-d (内ダイアフラム)
6) E-e (折れ曲がり部)



深層混合処理工法地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、深層混合処理工法による地盤改良地業である。本工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）および「建築工事標準仕様書・同解説 JASS4 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会）による。

3. 特記事項

- （1）コラムの径、掘削深度（設計コラム長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- （2）コラムの設計基準強度は $F_c = 1050 \text{ kN/m}^2$ (1.05 N/mm^2) とする。
- （3）設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- （4）本工法は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

4. 施工計画

- （1）本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム工法、NCコラム工法、プロップ工法とする。
- （2）施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 工事件名及び工事場所 | ⑥ 施工機器 |
| ② コラム仕様及び数量
〔コラム径・掘削深度（設計コラム長+空掘長）・本数・設計基準強度〕 | ⑦ 固化材配合条件 |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑨ 品質検査 |
| ⑤ 施工手順 | ⑩ 安全衛生対策 |
| | ⑪ 地盤概要（土質柱状図） |
| | ⑫ コラム伏図 |
| | ⑬ 技術審査証明書（写） |

5. 施工

- （1）作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- （2）基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
 - b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
 - c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
 - d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
 - e. 先端練り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- （3）設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長とする。
- （4）本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

- （1）共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- （2）所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- （3）改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- （4）ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- （1）固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- （2）配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$Xf = \alpha \times F_c$ [α : 割り増し係数、Xf : 配合強度]

- （3）室内配合試験

固化材液の配合（W/C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

計画配合 水セメント比 70% 添加量 300kg/m³

8. 施工管理

- （1）施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

- | | | |
|---------|------------------------------|--|
| ① 形状・寸法 | ：鉛直性
コラム心
掘削深度
コラム径 | 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
事前にコラム心にマークを設ける
深度計で計測し記録する
攪拌装置の形状・寸法を記録する |
| ② 固化材 | ：材料計量
固化材液の密度
固化材液の添加量 | 水、固化材の重量（kg/m ³ ）
マッドバランス等
スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する（kg/m ³ ） |
| ③ 攪拌混合度 | ：攪拌混合回数 | スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する（回/m） |
| ④ 支持地盤 | ：仕事量 | スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する（kJ/m）
（着底判定仕事量は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する） |

- （2）コラムの芯ズレ

コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

- （3）施工の立会い

建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

- （1）検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

- ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- ② 検査対象層は シルト であり、設計対象層を シルト とする。
設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均強度を超えないこと。
超えている場合は、最も低い平均強度の層を設計対象層とする。

- ③ 調査箇所数

- 頭部コア 1ヶ所
- 深度コア 1ヶ所

- （2）コア採取率による調査

コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。

コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。

- （3）合否の判定

- ① 設計対象層（シルト）についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のパラッキを想定する場合の検査手法Aによる。
- ④ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$\bar{X}N \geq XL = F_c + ka \cdot \sigma$$

$\bar{X}N$: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (N/mm² , kN/m²)

XL : 合格判定値 (N/mm² , kN/m²)

Fc : 設計基準強度 (N/mm² , kN/m²)

ka : 合格判定係数

σ : 標準偏差 (N/mm² , kN/m²) $\approx v \cdot \bar{q}ud$ (v : 変動係数、品質確認書により想定する
 $\bar{q}ud$: 想定した平均一軸圧縮強度 (N/mm² , kN/m²))

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| ① コラムの伏図及び番号 | ⑥ 仕事量 |
| ② コラムの施工日 | ⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量 |
| ③ コラムの径及び実施コラム長 | ⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率 |
| ④ 掘削深度 | ⑨ 合否判定結果 |
| ⑤ 攪拌混合回数 | |

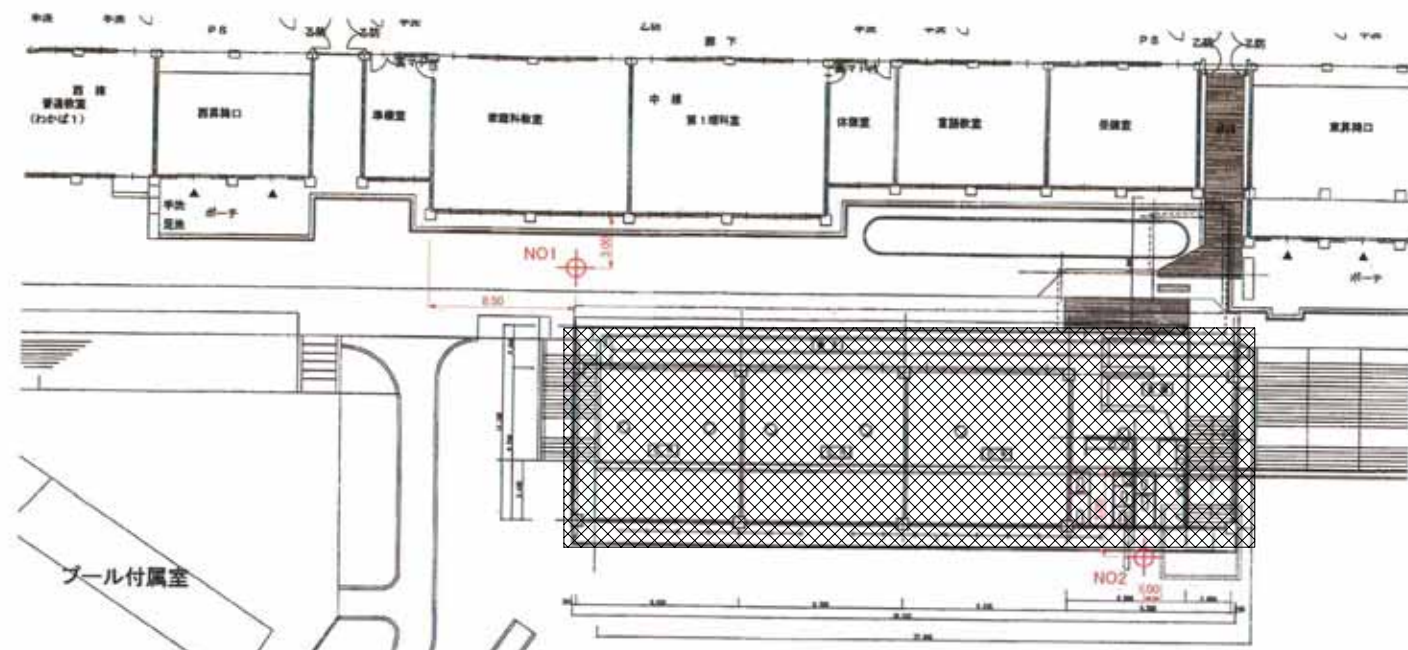
11. その他

令第129条の2の4の事項

- ・ 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
 - 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
 - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
 - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とする。
 - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
 - 建築物の部分を通り配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合には、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
 - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

※ 適用する 適用しない

備 考	株式会社 新島建築事務所 一級建築士事務所 愛知県伊勢市錦町(イ-19)第4813号 一級建築士 第300853号 構造士一級建築士 第2205号 村上 靖佳	設 計 監 理 株式会社 竹下一級建築士事務所 本 社 浜松市南区新橋町113番地 三重事務所 四日市市西町8-12メゾンビル203号 東京事務所 東京都文京区本郷2-25-14第1タイトルビル603	1級建築士 第41878号 竹下 繁	製 図 年 月 日	所 長	棟 印	意 匠	構 造	設 備	井田川小学校教室等増築工事	設計図	図 名 設備工事構造特記仕様書	図 番 S06 19	A3版は1/2縮小
	H24.04.													

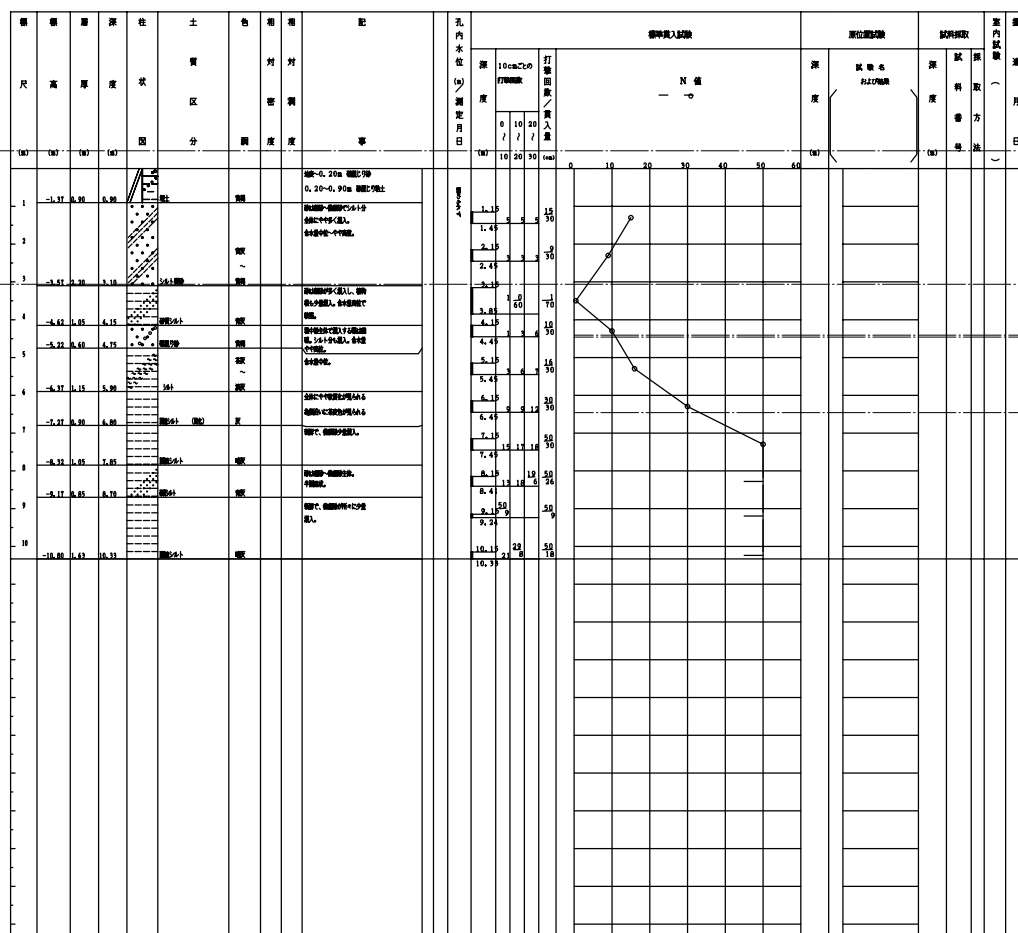


注) 特記なき限り、下記による。
 1. KBM=運動場地面+3530とする。
 2. [格子]印は、対象建物を示す。

ボーリング調査位置図

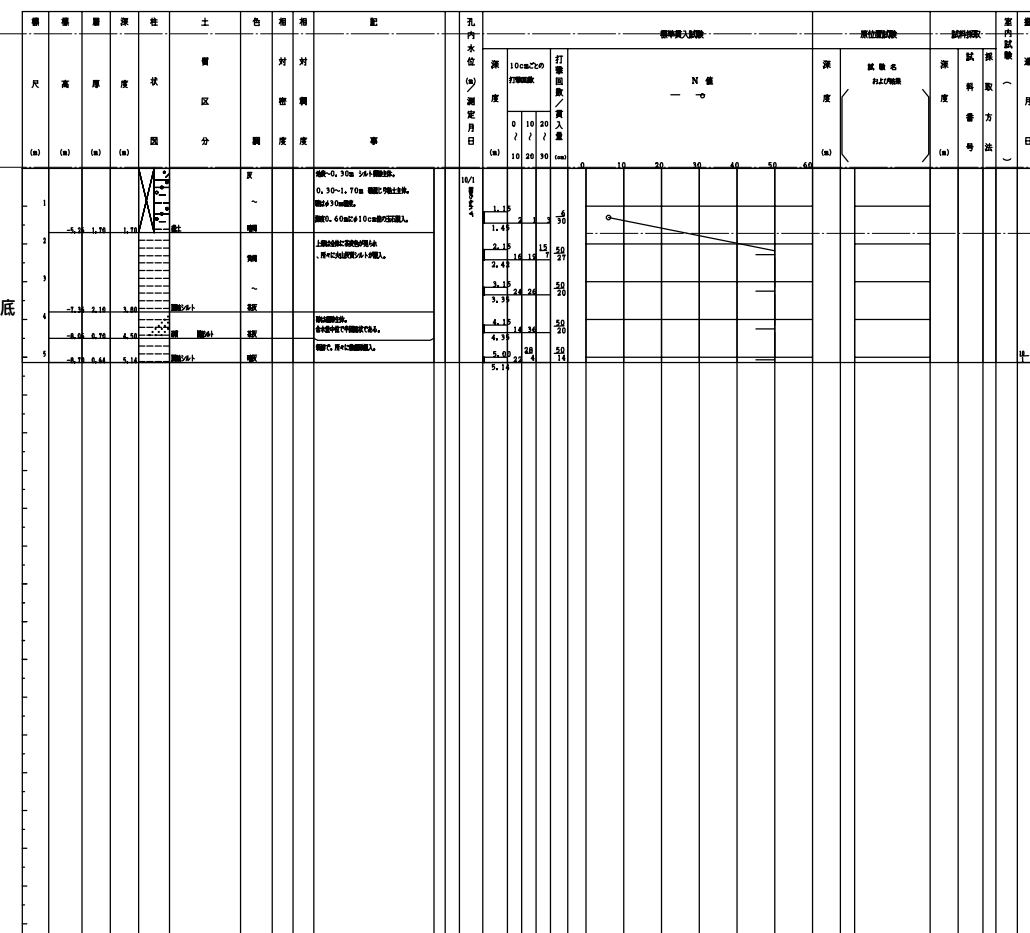
ボーリング柱状図

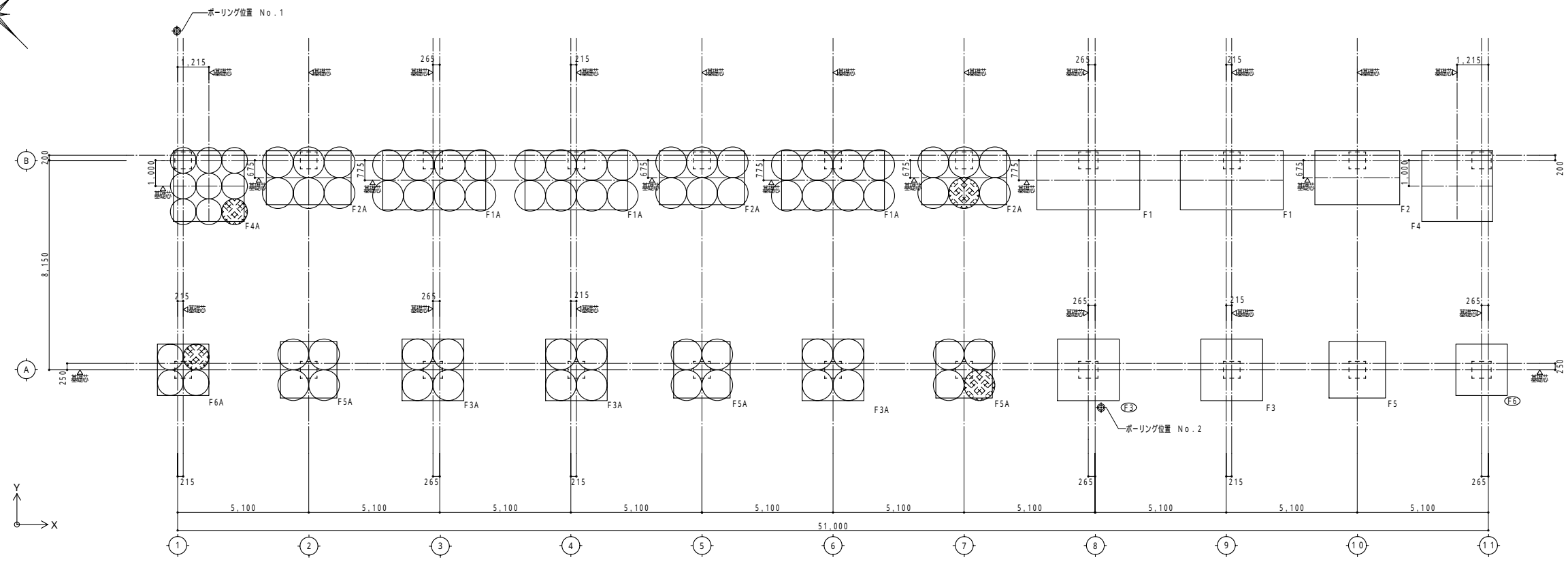
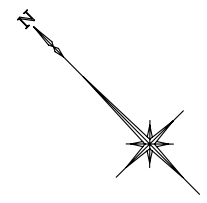
調査名		井田川小学校地質調査業務委託		シートNo.	
事業・工事名					
ボーリング名	魚1	調査位置		北緯	...
発注機関	龜山市教育委員会	調査期間	平成23年9月30日～平成23年10月1日	東経	...
調査業者名	有限会社 森エンジニアリング 0595-82-5415	現場代理人	林 彦文	ボーリング責任者	近田 昌司
孔口標高	-0.47m	角	上 110° 下 0°	方向	270° 180°
総掘進長さ	10.33m	使用機器	エンジン ヤンマー-NFD9	ポンプ	BELL-SP8



ボーリング柱状図

調査名		井田川小学校地質調査業務委託		シートNo.	
事業・工事名					
ボーリング名	魚2	調査位置		北緯	...
発注機関	龜山市教育委員会	調査期間	平成23年9月30日～平成23年10月1日	東経	...
調査業者名	有限会社 森エンジニアリング 0595-82-5415	現場代理人	林 彦文	ボーリング責任者	近田 昌司
孔口標高	-3.56m	角	上 110° 下 0°	方向	270° 180°
総掘進長さ	5.14m	使用機器	エンジン ヤンマー-NFD9	ポンプ	BELL-SP8



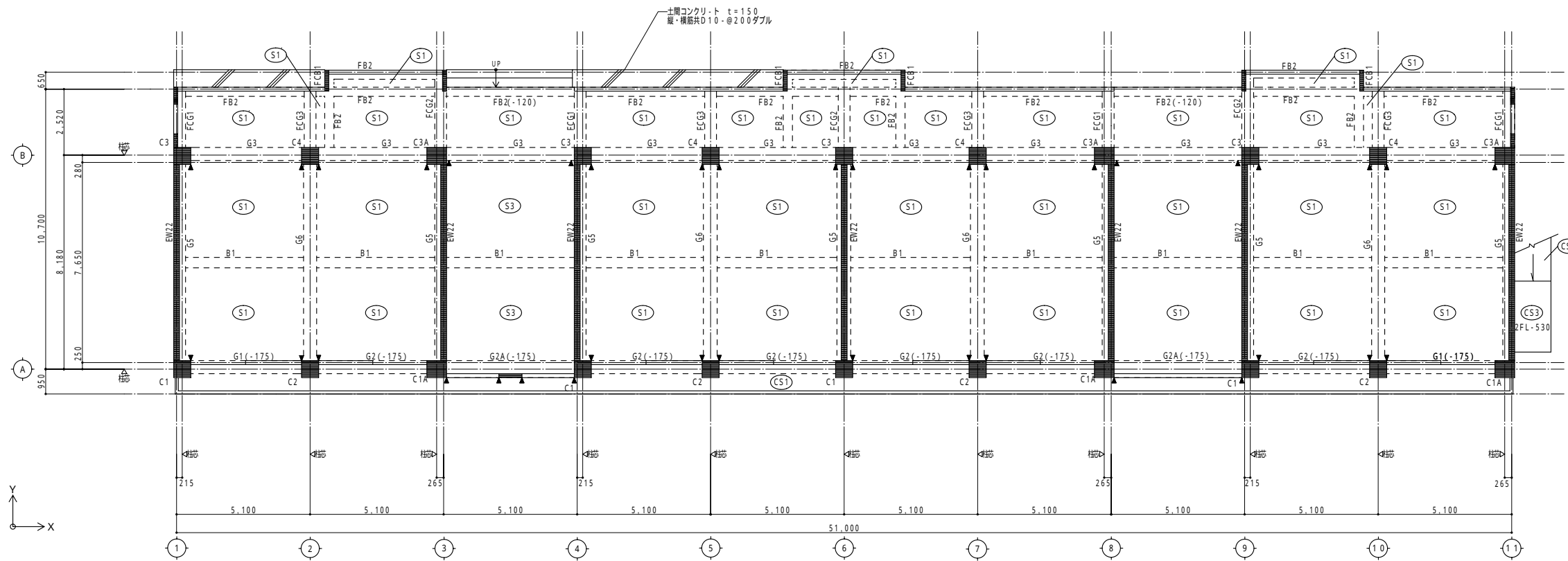
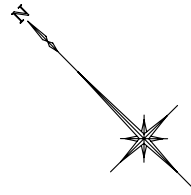


基礎伏図 1/100

- 註) 特記なき限り、下記による。
- 基礎底レベルは、下記による。
 運動地盤面 - 1,350 F1A, F2A, F3A, F4A, F5A, F6A
 運動地盤面 - 1,750 F1, F2, F3, F4, F5, F6
 - 柱状改良底レベルは、運動地盤面 - 3,400 とする。
 但し、施工時には、支持層の出現深度に応じて、改良長の決定を行なう。
 - 柱状改良は、セメントコラム工法とする。
 - 改良径は、以下とする。
 F1A, F2A, F3A, F5A 1,200
 F4A, F6A 1,000
 - 印は、ボーリング位置を示す。
 - 印は、試験位置を示す。
 - 印の基礎は、平板載荷試験を実施する基礎を示す。

使用材料

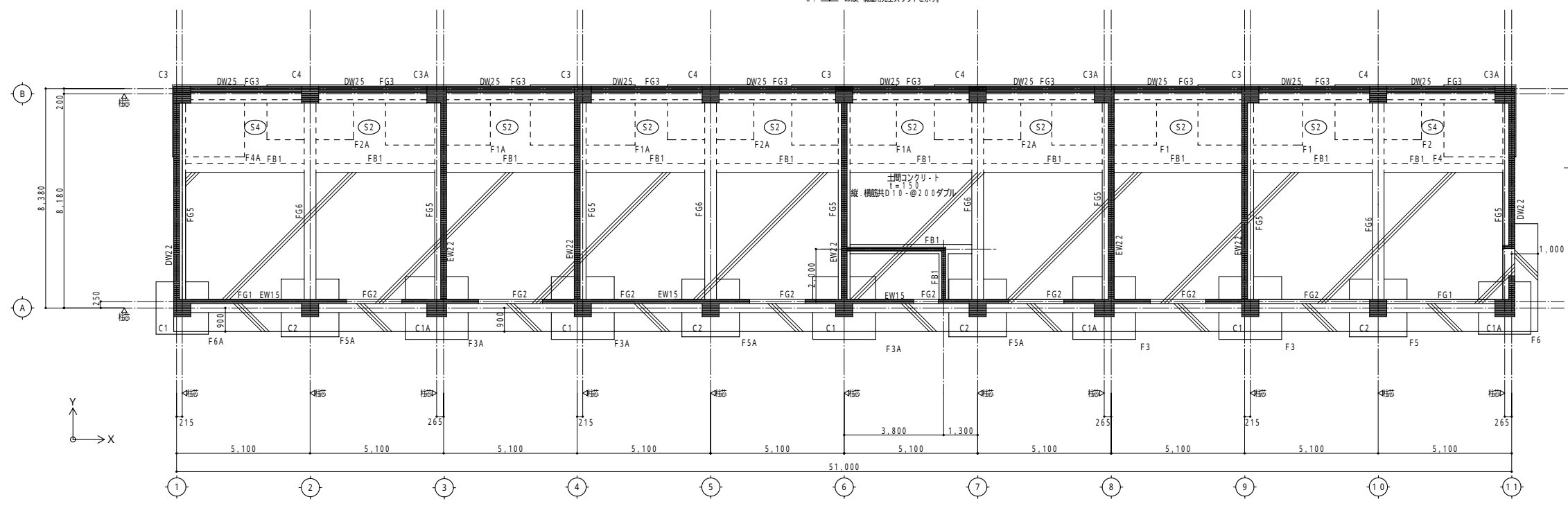
1. コンクリート強度	軽体コンクリート	$F_c = 24 \text{ N/mm}^2$
	土間コンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
	捨てコンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
2. 鉄筋	SD295A D10-D16	重ね継手
	SD345 D19-D25	ガス圧接
3. 設計地耐力	$Lq_a = 250 \text{ kN/m}^2$ (長期)	
	$Sq_a = 500 \text{ kN/m}^2$ (短期)	
4. 地盤	柱状改良体 改良径: 1,000 1,200	
	支持層 固結シルト層 (N=30以上)	
	改良長は、支持層の想定を運動地盤面 - 3,400 とするが、上記支持層の出現深度に応じて、監督員と協議の上、決定するものとする。 但し、改良体は上記支持層に500程度のみ込みを確保すること。	



2階梁伏図 1/100

- 註) 特記なき限り、下記による。
- 2FL=1FL+3,200とする。
 - スラブ天端レベルは、2FL-25とする。
 - 梁天端レベルは、2FL-25とする。
 - 小梁天端レベル=スラブ天端レベルとする。
 - 壁は、W15(t=150)とする。
 - 印は、構造用完全スリットを示す。

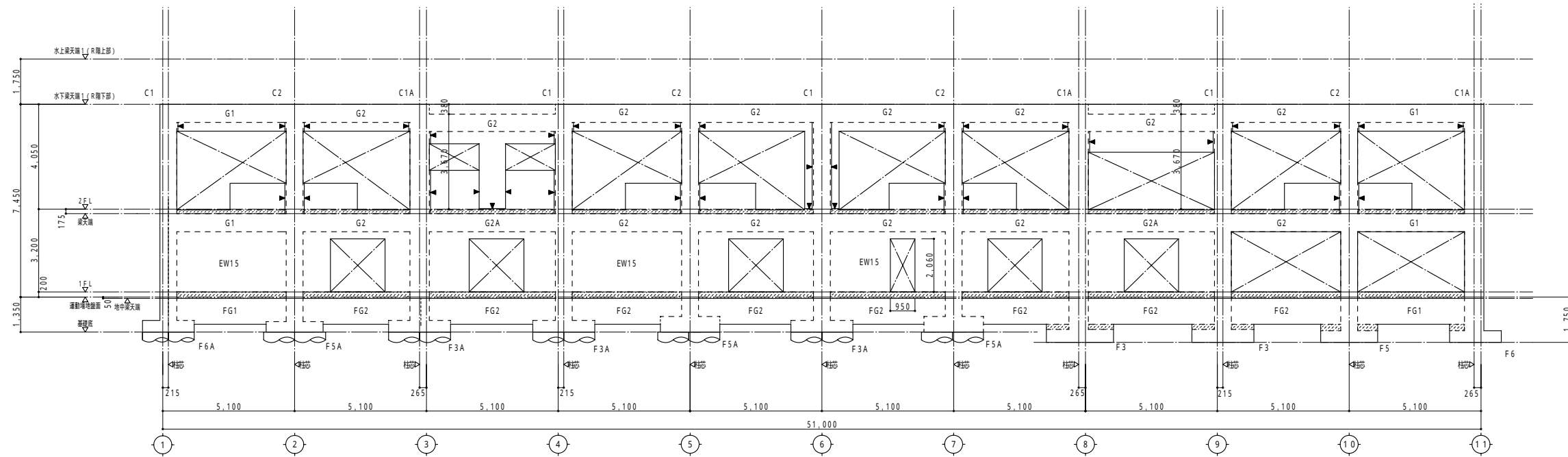
7. 斜線部:土間コンクリートを示す。



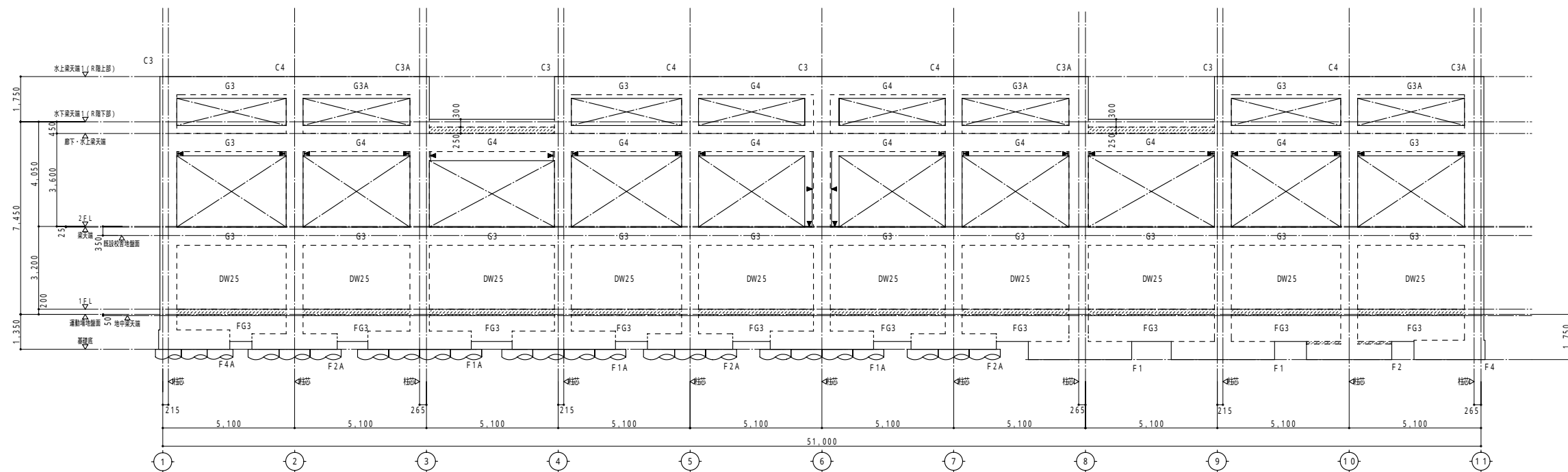
1階梁伏図 1/100

- 註) 特記なき限り、下記による。
- 1FL=運動場地面+200とする。
 - スラブ天端レベルは、1FL±0とする。
 - 地中梁天端レベルは、1FL-250=運動場地面-50とする。
 - 地中小梁天端レベル=スラブ天端レベルとする。
 - 壁は、W15(t=150)とする。

6. 斜線部:土間コンクリートを示す。

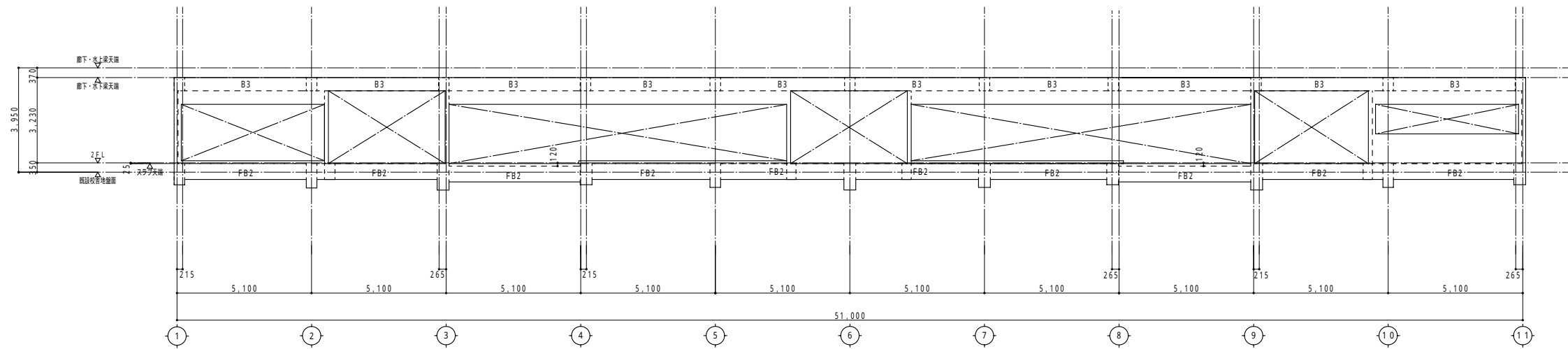


Ⓐ 通リ 輪組図 1/100

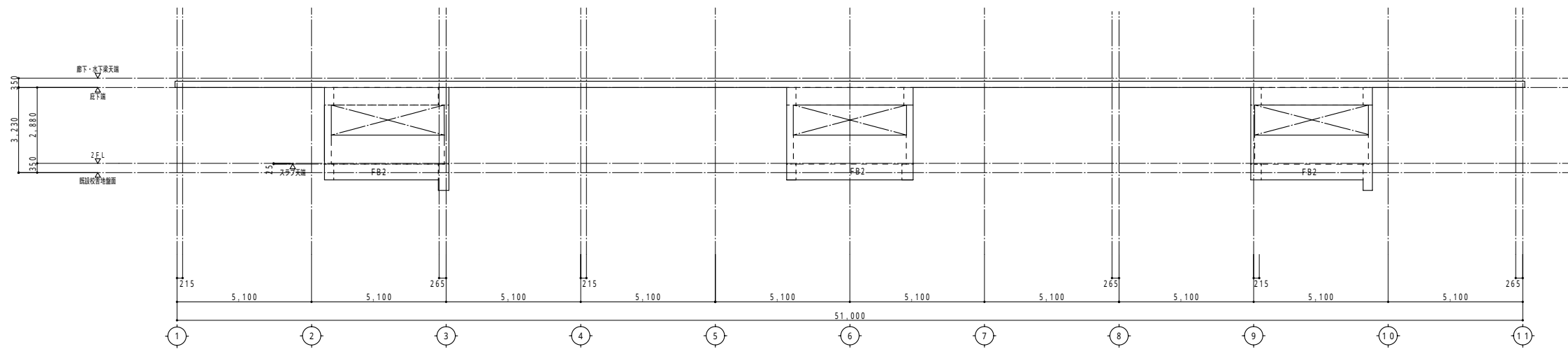


Ⓑ 通リ 輪組図 1/100

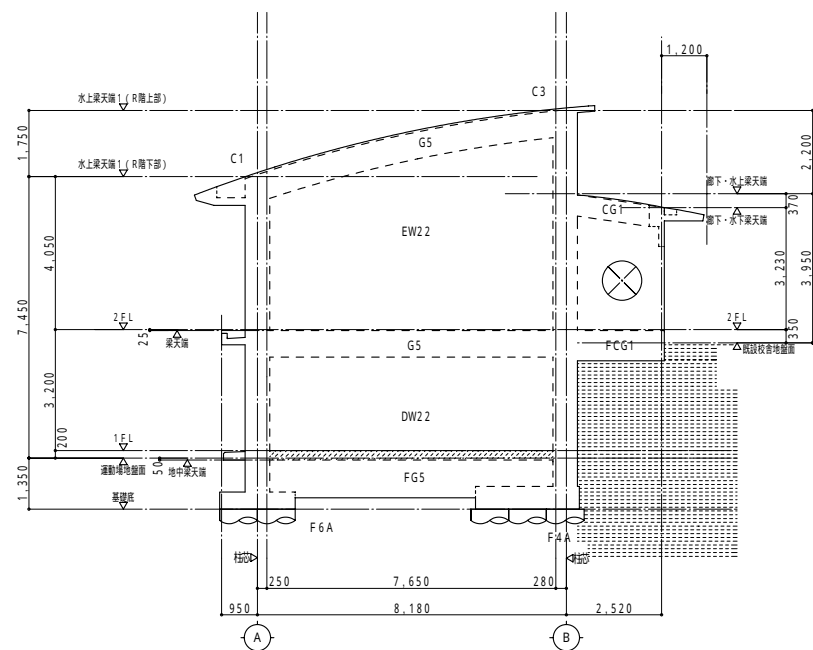
註) 特記なき限り、下記による。
 1. 壁は、W15 (t=150) とする。
 2. 印は、構造用完全スリットを示す。
 3. 斜線部 打ち増しを示す。



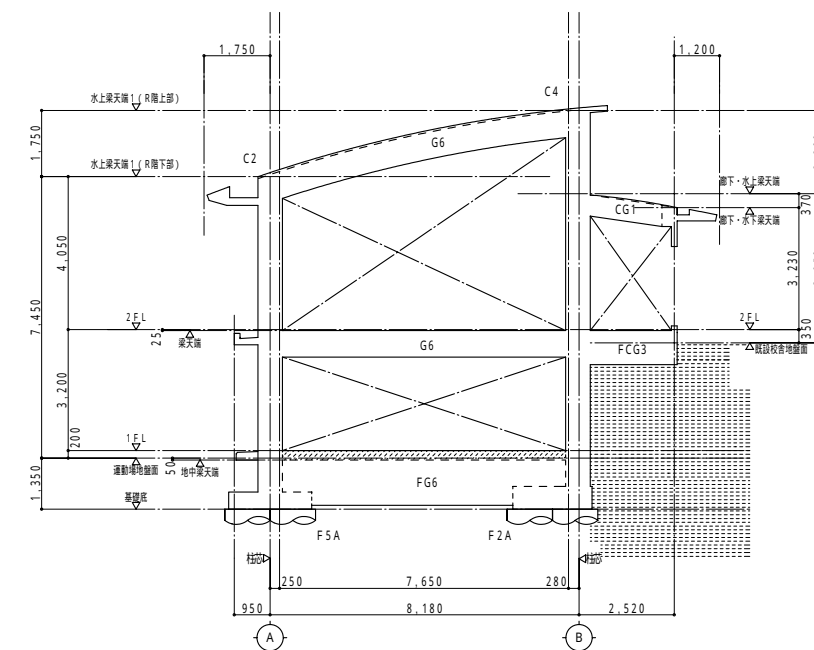
① 通り+2,520 輪組図 1/100



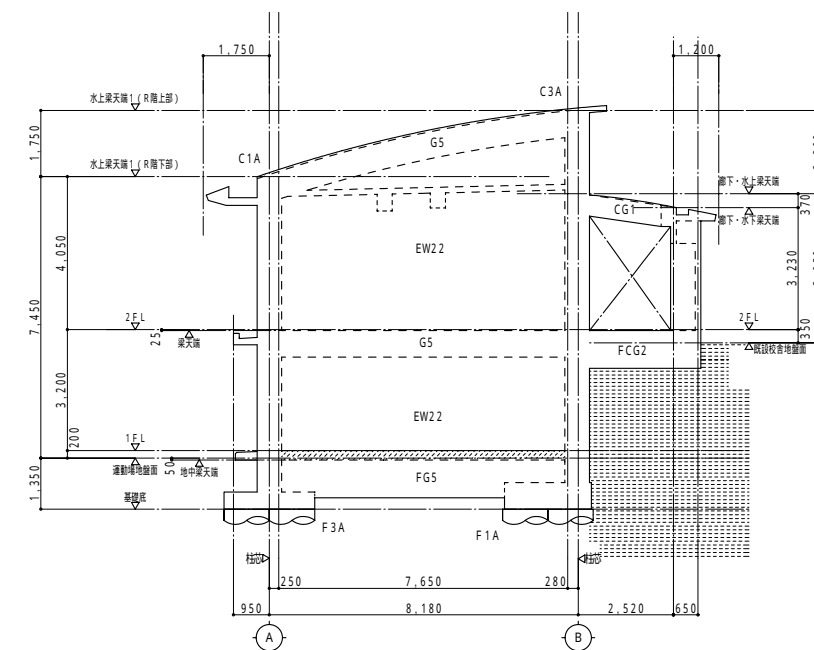
② 通り+3,170 輪組図 1/100



① 通り 輪組図 1/100



② 通り 輪組図 1/100



③ 通り 輪組図 1/100

注) 特記なき限り、下図による。
 1. 墨は、W15(t=150)とする。
 2. [斜線部] 斜線部 打ち増しを示す。

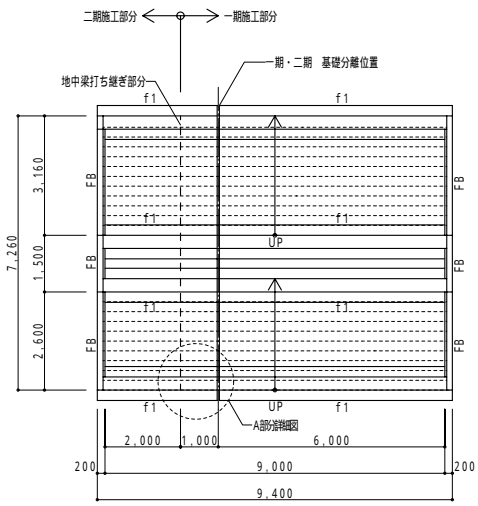
地中梁リスト 1/40 註) 1. 巾止め筋は D10-@1,000以内とする。

符号	FG1	FG2	FG3	FG5	FG6		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	A通り 端部	中央	B通り 端部
形状							
B x D	500x1,000	500x1,000	500x1,000	450x1,000	550x1,200		
上筋筋	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	6-D25	8-D25	12-D25
下筋筋	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25
STP筋	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	4-D13		

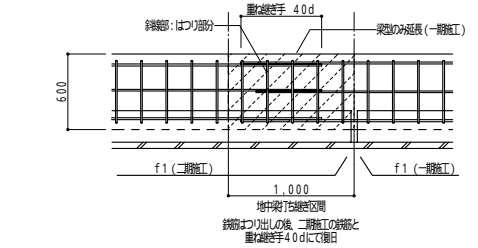
地中小梁リスト 1/40 註) 1. 巾止め筋は D10-@1,000以内とする。

符号	FB1	FB2	FCG1		FCG2		FCG3		FCB1
位置	全断面	全断面	基部	先端部	基部	先端部	基部	先端部	全断面
形状									
B x D	350x700	350x600	450x800		450x1,000		550x900		350x600
上筋筋	3-D19	3-D19	7-D22	4-D22	8-D22	4-D22	8-D22	5-D22	3-D19
下筋筋	3-D19	3-D19	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	3-D19
STP筋	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@150		□-D10-@150		□-D13-@200		□-D10-@200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D13		2-D13		2-D13		2-D10

外部大階段 構造図



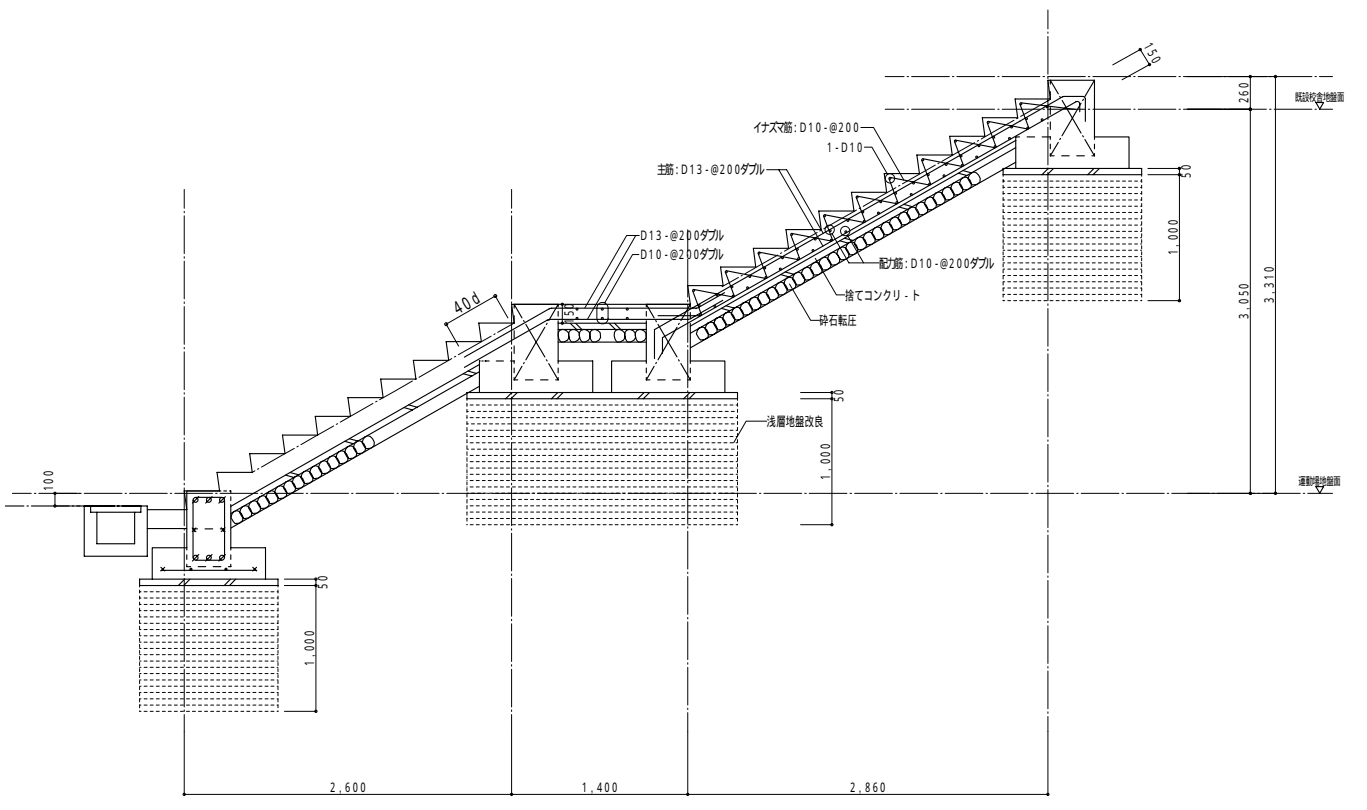
階段配梁図 1/100



A部分詳細図 1/30

地中梁リスト 1/30

符号	f1	FB
位置	全断面	全断面
形状		
B x D	350x600	200x600
上筋筋	3-D16	2-D16
下筋筋	3-D16	2-D16
STP筋	□-D10-@200	□-D10-@200
腹筋	2-D10	2-D10
ベース筋	D13-@200	—
配力筋	2-D10	—
用心鉄筋	2-D13	—



階段配筋図 1/30

註)特記なき限り、次項に従う。
 1. S、HOOP筋: D10-@600以内
 2. 汎用筋のHOOP筋は、□-D13-@100とする。

符号	C1	C1A	C2	C3	C3A	C4
2階(下部)						
X x Y	650x650	750x650	650x650	650x650	750x650	650x650
主筋	20-D22	18-D22	20-D22	18-D22	18-D22	20-D22
HOOP筋	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
1階						
X x Y	650x650	750x650	650x650	650x650	750x650	650x650
主筋	20-D22	18-D22	20-D22	18-D22	18-D22	20-D22
HOOP筋	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100

符号	C3	C3A	C4
2階(上部)			
X x Y	650x650	750x650	650x650
主筋	18-D22	18-D22	20-D22
HOOP筋	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100

註)特記なき限り、次項に従う。
 1. 巾止め筋: D10-@1,000以内

符号	G1			G2		G2A		G3			G3A			G4		G5	G6																																																							
	1,11通り 端部	中央	2,10通り 端部	端部	中央	端部	中央	全断面			2,7,10通り 端部	中央	3,8,11通り 端部	端部	中央	全断面	A通り 端部	中央	B通り 端部																																																					
R G (R階上部)	(Diagonal line indicating no data for this section)																																																																							
B x D																			(Diagonal line indicating no data for this section)																																																					
上筋																																					(Diagonal line indicating no data for this section)																																			
下筋																																																							(Diagonal line indicating no data for this section)																	
STP筋																																																																								
腰筋	(Diagonal line indicating no data for this section)																																																																							
R G (R階下部)																																																																								
B x D																			650x700			650x700		650x700		650x700			500x700			650x700		450x700			550x800																																			
上筋																			4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22			6-D22	6-D22	7-D22				7-D22	6-D22					4-D22	4-D22	4-D22																																
下筋																			4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22			6-D22	6-D22	6-D22				6-D22	6-D22					4-D22	5-D22	4-D22																																
STP筋	□-D13-@150			□-D13-@150		□-D13-@150		□-D13-@150			□-D13-@200			□-D13-@200		□-D10-@150		□-D13-@200																																																						
腰筋	4-D13(40d定着)			4-D13(40d定着)		4-D13(40d定着)		2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		2-D10																																																						
2 G																																																																								
B x D	500x700			500x700		650x700		500x700								450x700			550x800																																																					
上筋	6-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	6-D22	5-D22	4-D22	4-D22					4-D22	4-D22					5-D22	4-D22	8-D22																																																		
下筋	6-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22					4-D22	4-D22					4-D22	5-D22	4-D22																																																		
STP筋	□-D13-@100			□-D13-@150		□-D13-@150		□-D13-@200								□-D10-@150			□-D13-@200																																																					
腰筋	2-D13(40d定着)			2-D13(40d定着)		2-D13(40d定着)		2-D10								2-D10			2-D10																																																					

符号	B1			B2		B3	CG1	
	全断面	端部	中央	全断面	端部	中央	基部	先端部
形状								
BxD	350x600	400x600		400x500	650x600	650x500		
上端筋	3-D19	3-D16	3-D16	3-D19	16-D25	8-D25		
下端筋	3-D19	3-D16	5-D16	3-D19	13-D25	8-D25		
STP筋	□-D10-@200	□-D10-@150		□-D10-@150	□-D13-@150			
横筋	2-D10	2-D10		4-D13(40d定着)	2-D10			

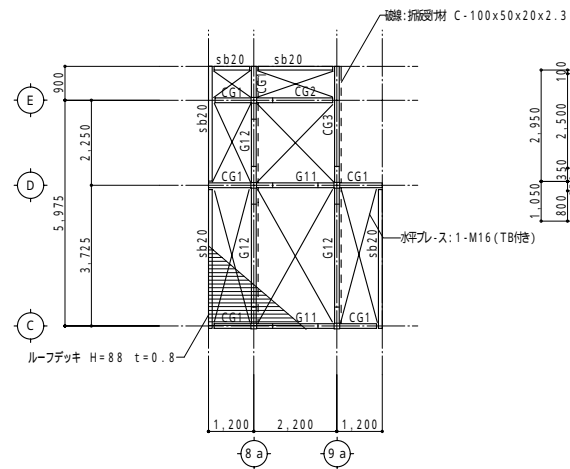
スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向・主筋		長辺方向・配筋筋		備考
			全	域	全	域	
S1	t=150	上端筋	D10・D13-@200		D10・D13-@200		モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13-@200		D10・D13-@200		
S2	t=250	上端筋	D13-@100		D10・D13-@200		モチアミ配筋
		下端筋	D16-@100		D10・D13-@200		
S3	t=150	上端筋	D13-@200		D10・D13-@200		モチアミ配筋
		下端筋	D13-@200		D10・D13-@200		
S4	t=250	上端筋	D13-@100		D13-@100		モチアミ配筋
		下端筋	D16-@100		D13-@100		
CS1	t=150	上端筋	D10・D13-@200		D10-@200		片持ち式スラブ配筋
		下端筋	D10-@200		D10-@200		
CS2	t=180	上端筋	D13-@150		D10-@200		片持ち式スラブ配筋
		下端筋	D10-@150		D10-@200		
CS3	元端 先端 t=150-120	上端筋	D13-@200		D10-@200		片持ち式スラブ配筋
		下端筋	D10-@200		D10-@200		

壁リスト 1/40 註)巾止め筋は D10-@1,000以内とする。

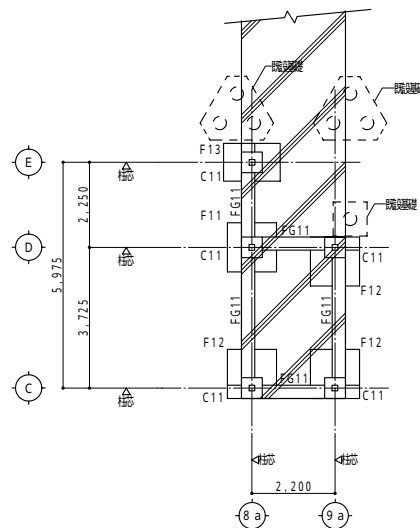
符号	W15	EW15	EW22	DW22	DW25
	t=150	t=150	t=220	t=220	t=250
水平断面					
縦筋	D10-@150ダブルチドリ	D10-@150ダブルチドリ	D13-@200ダブル	(土圧側)D13-@100ダブル (内側)D13-@200ダブル	(土圧側)D16-@100ダブル (内側)D13-@200ダブル
横筋	D10-@150ダブルチドリ	D10-@150ダブルチドリ	D13-@200ダブル	(土圧側)D13-@200ダブル (内側)D13-@200ダブル	(土圧側)D13-@200ダブル (内側)D13-@200ダブル
開口部補強筋	縦筋	1-D13	2-D13	2-D16	
	横筋	1-D13	2-D13	2-D16	
	斜め筋	1-D13	1-D13	2-D13	
端部補強筋					

<p>バルコニー側大径廻り 配筋要領図 1/30</p>	<p>廊下側大径廻り 配筋要領図 1/30</p>	<p>トップライト廻り 配筋要領図 1/30</p>	<p>バルコニー突き出し廻り 配筋要領図 1/30</p>	<p>外階段底廻り 配筋要領図 1/30</p>	
<p>構造スラブ下地要領図 1/20</p> <p>はスラブリストによる。</p>	<p>土間コンクリート下地要領図 1/20</p>	<p>地中梁上部打ち増し 配筋要領図 1/30</p>	<p>完全構造スリット要領図 1/30</p> <p>特記なき限り、下記による。 1. 構造スリット設置箇所は、内図および軸組図による。 2. 構造スリットは、完全構造スリットとする。 3. 構造スリット材は、耐火性能を有し、かつ二次防火処理が施されているものとする。 4. 設計図に示すスリット位置に限らず、柱壁長さが100mm未満の場合は、構造スリットを省略することができる。</p> <p>(鉛直スリット)</p> <p>(水平スリット)</p>	<p>大梁上部打ち増し 配筋要領図 1/30</p>	<p>S2 S4スラブ 定着要領 1/30</p>



R 階梁伏図 1/100

註) 特記なき限り、下記による。
 1. R 階梁天端レベルは、木デッキ床レベル+2,500(水)とする。
 2. R 階梁天端レベルは、木デッキ床レベル+2,600(水)=(水下)+100とする。

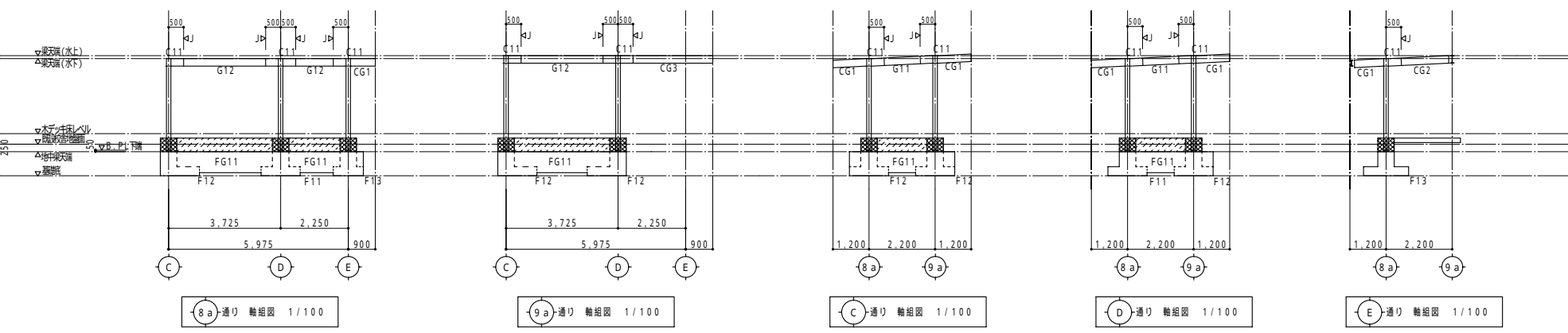


1 階梁伏図 1/100

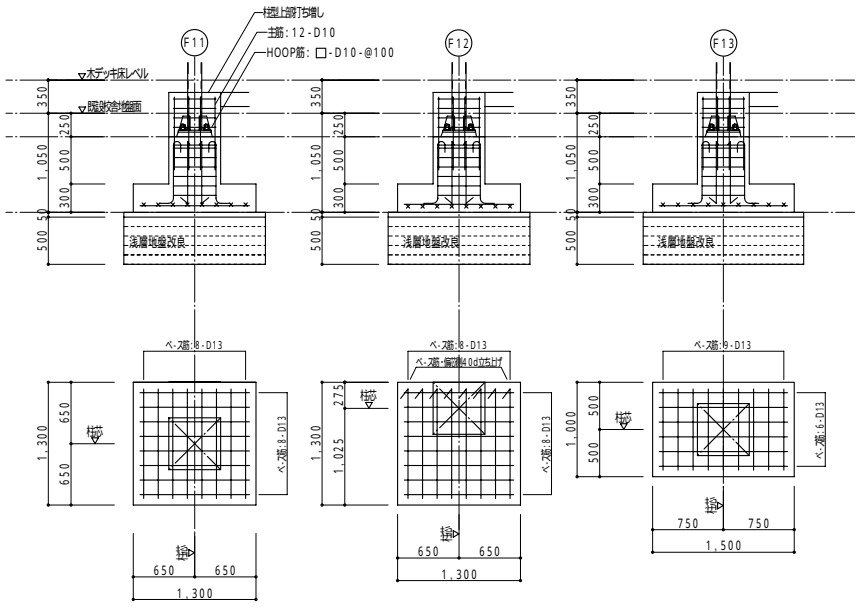
註) 特記なき限り、下記による。
 1. 木デッキ床レベル=既設校舎地盤面+350+470とする。
 2. 土間コンクリート天端レベル=木デッキ床レベル-130(水)-145(水)とする。
 3. 地中梁天端レベルは、既設校舎地盤面-250+木デッキ床レベル-600とする。
 4. B.P.L下層レベルは、既設校舎地盤面-200とする。
 5. 基礎底レベルは、既設校舎地盤面-1,050とする。
 6. 基礎下は、浅層地盤改良とする。改良底は、既設校舎地盤面-1,600とする。
 7. 斜線部:土間コンクリート t=150 両方向共D10・@200ダブル

使用材料

1. コンクリート強度	躯体コンクリート 土間コンクリート 捨てコンクリート	$F_c = 21\text{N/mm}^2$ $F_c = 18\text{N/mm}^2$ $F_c = 18\text{N/mm}^2$
2. 鉄筋	SD295A D10-D16 SD345 D19	巻ね継手 ガス圧接
3. 鉄骨	SN400B, SS400, STKR400 SN490C	
4. ボルト	HTB S10T	
5. 地盤	浅層地盤改良 (セメント系固化剤添加量 80kg/m^3 以上とすること) 設計地耐力 $Lq = 60\text{kg/m}^2$ (長期) (平板載荷試験にて確認すること)	



基礎リスト 1/40

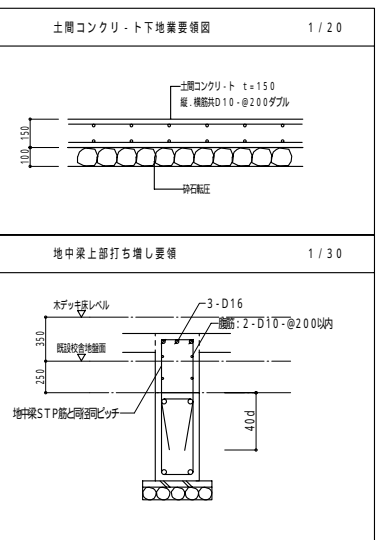


柱基礎リスト 1/40

地中梁リスト 1/40

符号	FG11
位置	全断面
形状	
B x D	350 x 700
上筋	3-D19
下筋	3-D19
STP筋	-D13-@200
腰筋	2-D13

註) 1. 巾止筋は D10-@1,000以内とする。



柱リスト

符号	C11
材種	STKR400
主材	1階 □-150x150x6
B.プレート形状 (1/30)	
B.プレート	B. PL-19x350x350(SN490C)
A-ボルト	4-M20(SNR400)L=600フック付き
備考	ダブルネット締め Rib. PL-9(SN400)h=100
柱型 (1/30)	
X x Y	550 x 550
主筋	12-D19(SD345)
HOOP筋	□-D13-@100
備考	TOP筋 2-D13

大梁リスト

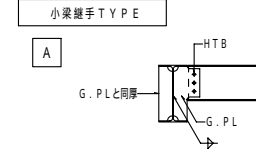
符号	位置	G11	G12
RG	端部	H-250x125x6x9 SN400B	H-250x125x6x9 SN400B
	中央	H-250x125x6x9 SN400B	H-250x125x6x9 SN400B

大梁継ぎ手リスト 註) 1. 建設省住宅局建築指導課 鉄骨構造標準接合部委員会SCSS-H97に依る。 SN400B HTB.S10T

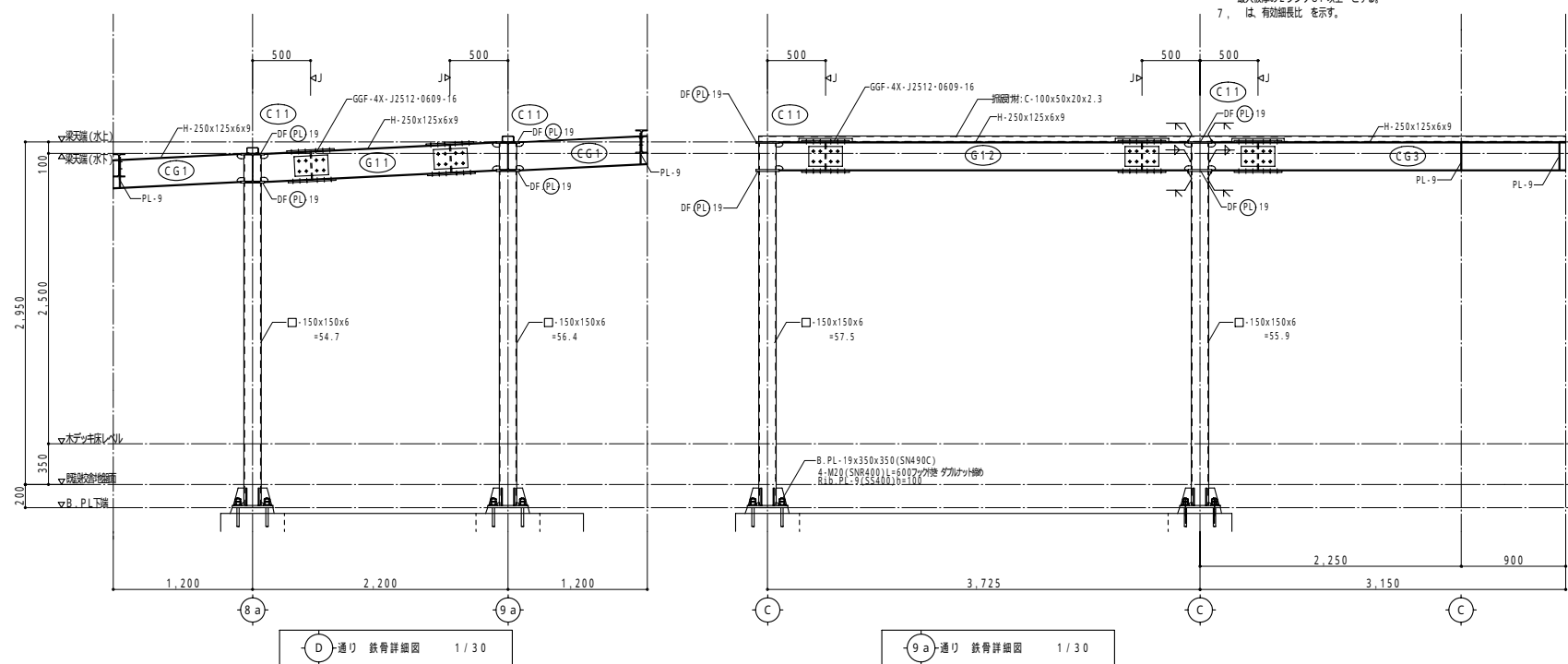
主材	FLG継手		WEB継手		pc	継手呼称	備考
	外添板	内添板	Fn	添板			
H-250x125x6x9	12x125x410	—	3x2-M16	9x170x290	2x2-M16	90	GGF-4X-J2512-0609-16

二次部材リスト 特記なき限り、次項に従う。1. ボルト:HTB S10Tとする

名称	符号	主材	材種	G. PLATE	H. T. B	継ぎ手TYPE	備考
小梁	sb20	H-200x100x5.5x8	SS400	G. PL-9	2x1-M16	A	
片持梁	CG1	H-250x125x6x9	SN400B	工場溶接			
	CG2	H-250x125x6x9	SN400B	工場溶接			
	CG3	H-250x125x6x9	SN400B	工場溶接			
水平プレス		1-M16 JIS規格品	SNR400				G. PL-9 HTB.1-M16



註) 特記なき限り、下記による。
 1. 材種 大梁 SN400B 柱 STKR400
 2. DF(PL)の材種は、SN490Cを示す。
 3. 継ぎ手は 建設省住宅局建築指導課 鉄骨構造標準接合部委員会SCSS-H97に依る。
 4. スカトップは 改良型スカトップとする。
 5. ダイアフラムの出は、L=25mm以上、UT検査を実施する。
 6. 通しダイアフラムの板厚は、接合する大梁フランジ厚、柱板厚のうち、最大板厚の2フランクUP以上とする。
 7. は、有効長比を示す。



D-通り 鉄骨詳細図 1/30

9a-通り 鉄骨詳細図 1/30